

29年漁期 まあじ漁獲可能量(TAC)案について

(単位: 万トン)

魚種	系群	資源状態		ABClimit					TAC				備考
		水準	動向	26年	27年	28年	29年	漁獲シナリオ (管理基準)	26年	27年	28年	29年 (案)	
まあじ	<p>【中期的管理方針(案)】 太平洋系群については、資源が減少傾向にあることから、減少に歯止めをかけることを基本方向として、管理を行うものとする。 対馬暖流系群については、大韓民国及び中華人民共和国等と我が国の水域にまたがって分布し、大韓民国及び中華人民共和国等においても採捕が行われていることから、関係国との協調した管理に向けて取り組みつつ、資源を維持若しくは増大することを基本に、我が国水域への来遊量の年変動にも配慮しながら、管理を行うものとし、資源管理計画の推進を図るものとする。</p>												<p>【29年TAC設定の考え方】 太平洋系群及び対馬暖流系群について、中期的管理方針に則して、ベースとするABCを、太平洋系群については漁獲シナリオ③の「親魚量の増大(1.25万トン)」、対馬暖流系群については漁獲シナリオ③の「親魚量の維持(20.8万トン)」から韓国の直近5年平均の漁獲量2.3万トンを控除した18.5万トンを日本EEZの値とし、これらの合計値19.75万トンをTAC数量とする。</p>
	太平洋	中位	減少	1.82	2.57	2.48	1.25	親魚量の増大(③)					
	対馬暖流	中位	増加	24.0 (20.8)	23.5 (21.7)	22.1 (20.3)	20.8 (18.5)	親魚量の維持(③)					
合計			25.82 (22.62)	26.07 (24.27)	24.58 (22.78)	22.05 (19.75)		23.42	24.27	22.78	19.75		

注1) 27年のABClimit欄は再評価後の数量。26年及び27年のTAC欄は期中改定後の数量。

注2) 下段()書きについては、日本EEZの値。26年は全漁獲量に対する日本EEZの漁獲割合から算出。27年からは韓国の直近5年平均の漁獲量を控除して算出。

【資源評価結果】

	資源の状態		資源量(親魚量) の状態	漁獲シナリオ (管理基準)	2017年 ABC (万トン)	参 考	
	水準	動向				2015年 親魚量	Blimit
太平洋系群	中位	減少	>Blim	ABClimit	1.00	2.7万トン	親魚量 2.4万トン
				*① 親魚量の増大(F30%SPR)			
				*② 加入当たりの漁獲量の最大化(Fmax)			
				*③ 親魚量の増大(0.8Fsus)	1.25		
対馬暖流系群	中位	増加	>Blim	ABClimit	15.6	25万トン	親魚量 15万トン
				*① 資源量の増大(F30%SPR)			
				*② 現状の漁獲量の維持(Fcurrent)			
				*③ 親魚量の維持(Fmed)	20.8		

注) *のついたシナリオが中期的管理方針に合致する。

近年の韓国のみあじ漁獲実績※1

年(平成)	(単位:トン)
17年	41,431
18年	22,467
19年	18,627
20年	22,342
21年	21,426
22年	17,913
23年	17,813
24年	16,159
25年	14,689
26年	23,142
27年	41,719
直近5年平均	22,705
《対馬暖流系群》	
平成29年ABC	208,000
我が国EEZ分	185,000

※1: 日本EEZにおける韓国の漁獲は除く。

注1. 赤の数字は直近5年間の最大漁獲量

注2. 青の数字は直近5年間の最小漁獲量

平成29年漁期 まいわし漁獲可能量(TAC)案について

(単位:万トン)

魚種	系群	資源状態		ABClimit					TAC				備考
		水準	動向	26年	27年	28年	29年	漁獲シナリオ (管理基準)	26年	27年	28年	29年 (案)	
まいわし	<p>【中期的管理方針(案)】 太平洋系群については、海洋環境が資源の増大に好適な状況になる可能性があることから、海洋環境や資源動向及び漁獲動向に注意しつつ、資源水準の維持(可能な場合には増大)を基本方向として、管理を行うものとする。 対馬暖流系群については、大韓民国及び中華人民共和国等と我が国の水域にまたがって分布し、大韓民国及び中華人民共和国等においても採捕が行われていることから、関係国との協調した管理に向けて取り組みつつ、資源を維持若しくは増大することを基本に、我が国水域への来遊量の年変動にも配慮しながら、管理を行うものとし、資源管理計画に基づく取組の推進を図るものとする。</p>												<p>【29年TAC設定の考え方】 太平洋系群及び対馬暖流系群について、中期的管理方針に則して、ベースとするABCを、漁獲シナリオ③の「親魚量の維持(73.5万トン及び12.1万トン)」とし、これらの合計値に基づく85.6万トンをTAC数量とする。</p>
	太平洋	中位	増加	31.0	28.3	70.6	73.5	親魚量の維持(③)					
	対馬暖流	中位	横ばい	11.9	14.1	9.8	12.1	親魚量の維持(③)					
合計				42.9	42.4	80.4	85.6		42.9	43.5	80.4	85.6	

注) 28年のABClimit欄は再評価後の数量、27年及び28年のTAC欄は期中改定後の数量。

【資源評価結果】

	資源の状態		資源量(親魚量)の状態	漁獲シナリオ (管理基準)	2017年 ABC (万トン)	参 考	
	水準	動向				2015年 親魚量	Blimit
太平洋系群	中位	増加	>Blim	ABClimit		60.6万トン	親魚量 22.1万トン
				*① 現状の漁獲圧の維持(Fcurrent)	56.6		
				*② 親魚量の増大(F30%SPR)	69.4		
				*③ 親魚量の維持(Fmed)	73.5		
対馬暖流系群	中位	横ばい	>Blim	ABClimit		19.2万トン	親魚量 10万トン
				*① 現状の漁獲圧の維持(Fcurrent)	7.3		
				*② 親魚量の増大(F40%SPR)	8.8		
				*③ 親魚量の維持(Fmed=F30%SPR)	12.1		

注) *のついたシナリオが中期的管理方針に合致する。